

# 政策調整会議の概要

開催日：H18.6.8

## 項 目

### 1 華フェスタの取り組みについて【観光担当】

## 内 容

### 1 華フェスタの取り組みについて【観光担当】

華フェスタ準備室より、華フェスタの取り組みについて概要説明を行ったのち、意見交換をした。

#### 【説明概要】

- ・ 平成 20 年度に開催予定としている華フェスタの主な目的は、県外も含めた交流人口の拡大（県観光ビジョン目標への到達）であり、高知県を訪れた方々が、花きの「花」を基本にして「食」、「祭り」及び「地域文化」といった事柄をも体感できる仕組みづくりを目指している。
- ・ このため、高知県独自の工夫と情報発信や、経済的効果の出る仕組みづくり、また、県内各地域の資源を活かして通年型の取り組みを行うこととしている。
- ・ 分野別の方策としては、
  - ターゲットへのアプローチ
  - 情報発信、誘客の方策
  - 受け入れ側（県内）の充実
  - 地元体制の整備、資源の組み合わせ
  - キーワード「花」での一体感
  - 花のある風景の整備、花き栽培の振興があると考えている。
- ・ 取り組みの方向性として、
  - 四季に合わせたテーマ展開…… 春は新緑や花など、夏は珊瑚や自然の中の花、秋は紅葉や食、冬はイルミネーションや酒の文化など、四季に合わせたテーマの中で「華」を展開
  - 限られた予算の有効活用…… 各種の補助金（交付金）を活用し、市町村や企業、関係団体との連携や、県民や NPO 等との協働をしながら、既存イベントや仕組みなどを活用
  - 積極的な情報発信…… IT ツールや県外事務所等の活用
  - 継続的な取り組み…… 仕組みづくりの工夫や人材の育成を考えている。
- ・ 事業名やサブタイトルについては、重要なものにとらえて検討をしている。
- ・ 事業そのものについては、開催時期が平成 20 年度であることから「20」を一つのキーワード（目安）にして取り組んでいく。
- ・ 具体としては、
  - 「20」のイベントを市町村等との連携のもとに展開
  - 「花」、「食」、「地域文化」、「自然」、「スポーツ」、「祭り」、「伝統産業」等のほか 20 のキーワードで整理
  - 「20」箇所（地域）を拠点に実施
    - 「牧野植物園・丸の内緑地」、「いやしの里」、「モネの庭」、「内原野大規模公園」、「程野・仁淀川」、「太郎川公園」、「帰全山公園」、「トンボ自然公園」、「ゆとりすとパーク」等

「20」の「おもてなし」等を道しるべ機能を活用して情報発信

「JR 高知駅及び主要駅」、「高知龍馬空港」、「道の駅」、「土佐くろしお鉄道の主要駅」、「高知新港・宿毛港湾」、「丸の内緑地公園」、「道路・河川区域」など

「20」の観光ルート等をエージェントと組んで企画・販売

「観光拠点」、「ウォーキングコース」、「体験」等様々なツアー組む

「20」の地域・活動の支援（市町村、地域支援企画員等との連携）

「20」の新たな取り組みの情報発信

などである。

- ・ 今後のスケジュールについては、8月には協議会を立ち上げ、10月頃にマスタープランを作成する予定である。
- ・ 駅や空港、インターチェンジなどに、インパクトのある花の整備を行っていきたいと思っているので、各部局には是非協力をお願いしたい。
- ・ 部局にとらわれず、個人的な繋がりでも良いので、キーパーソンの紹介等についてもお願いしたい。

### 【主な意見】

- ・ 継続的な取り組みの具体的なイメージはどのようなものか。  
市町村単体でのボランティアガイドなどの取り組みを横断的に繋げることによる人材育成や、エージェントと一緒にツアー等を企画して好評なツアーは継続して取り組むことである。また、新たなツアーを企画することなども継続した取り組みとしたい。
- ・ 平成20年度をスタートとしているが、何年間の取り組みとするかの終期設定はしているか。  
現時点では、考えていない。
- ・ そもそも、この計画がどういう経過でなされることとなったのか。  
単なるイベントではなく、県内各地にあるおもてなしの仕組みを継続してより良いものにすることと引き継ぎを受けている。  
県の経済が冷え込む中で、即効性のある仕組みも必要ではないかという議論の中から、高知の持てるものを活かして、継続性のある取り組みを行っていかうということではまったと聞いている。
- ・ 持続性というのであれば、地域をいかにやる気にさせていくかが大事で、地域支援企画員とも連携する必要がある。
- ・ 花を植えるというだけでなく、高知県本来の植生を取り戻すことも考えて欲しい。  
地域支援企画員や土木事務所の地域調整主任等との協議は、4月から実施している。  
ロードボランティアや地域のボランティアの活動は活発になっている。植生の管理にもつながっていくと思う。
- ・ 四万十川に40,010本の桜を植える取り組みを窪川土木事務所が中心になって行っているが、将来的には民間主体にしていきたいと思っている。四万十市の商工会議所も興味を示しているので、この取り組みとも関連づけて実施したい。
- ・ 高知に来てもらった人に植樹してもらおうというのも面白いのではないか。
- ・ 障害者団体は、国体やよさこいピックの時には、会場に花をセットした経験があるので、障害者の方々による取り組みについても考えて欲しい。  
ロットの確保という観点から、障害者施設や各学校にも取り組んでいただきたいので、維持管理も含めて協力をお願いしたいと考えている。
- ・ 牧野植物園は、1年のうちで4月から5月に来園者が集中している。駐車場や水の問題があり、人を呼ぶことになっても対応には限界があるということも承知しておいてもらいたい。
- ・ コンセプトが欲張りすぎて、全部を一度にやるのではなくて、一定期間集中して核となる取り組みを展開するというところでどうか。
- ・ 継続させるなら、地域にある素材をグレードアップさせることも必要である。

- ・ 取り組みが総花的で、かえってインパクトがなくなる可能性があると感じた。従来の観光施策とは違うということでやっていかないといけないのではないか。県外の方の視点も必要だと思う。
- ・ 経済的効果につなげることは大事だ。県外でも同様のフェスタをやっていると思うが、外の方の意見も聞きながら進めたほうが良いのではないか。
- ・ (花の)維持管理は大変だ。花の散った後そのままにするとみすばらしいので、手入れをしていく仕組みも考えておかないといけない。
- ・ 取り組みのもともとの部分には花きの「花」がある。国の事業でもあるジャパン・フラワー・フェスティバルを中心として、グリーンツーリズムも含めて農林水産部も連携して進めていきたい。
- ・ 季節ごとにグルーピングしたりして見せていくようなことも良い。生活にとけ込んでいる部分を魅力としてとらえれば、素材として良いものは沢山ある。
- ・ 華フェスタの主体は県であろうが、各イベントの主体はどこか。各イベントやツアー等の主体は、8月に設立予定の協議会で考えていく。平成19年度以降は実行委員会を立ち上げて、そこを主体に展開していく予定である。
- ・ 県外へのアピールにはイベントが不可欠である。また、取り組みの成否は地域の盛り上がりが重要となる。
- ・ 山の花のガイドだけでも人気はあるが、それだけでは人が足りない。こういうものを上手にコーディネートして海、川、山をつなぐような仕組みを作っていく必要がある。
- ・ 団体向けのツアー企画というよりは、個人の主体的な旅行をターゲットに考えるほうが良いのではないか。
- ・ 県域全体で県外客を呼ぶという視点だけではなく、県内の地域単位の視点も入れて取り組むことが必要だ。
- ・ 県内に投棄されているゴミについて、対応する必要があるのではないか。

〔副知事〕

- ・ いろんな経緯があってスタートをしている。県内のおもてなしの仕組みを活性化したいという視点は同じであるので、五台山の都市公園や牧野植物園のことも考えておいて欲しい。
- ・ 現時点では、これでやると固まったものではなくて、県民全体で取り組みたいということで考えている。華フェスタ準備室には、自分たちがこれだと思えるものを自由な発想でどんどん打ち出して欲しい。